

モジュール11 YouTube戦略

動画コンテンツによる深いファン育成

【ワークの目的】

動画コンテンツを単なる情報伝達ではなく、一つの「鑑賞体験」として設計します。静止画では伝えきれない制作の裏側や情熱を届けることで、視聴者をあなたの哲学に共鳴する「熱狂的なファン」へと育てる戦略を習得します。

【Q1：仕組みによる意識の書き換え】

(AIワーク1：視聴者を飽きさせない「制作プロセス動画」のナレーション案の結果を受けて)

AIが「導入のフック」「制作中の苦労話」「完成の感動」という構成で作成したナレーション原稿を読み返してください。

- これまで制作の舞台裏や自身の「苦悩」を見せることを、プロとして恥ずべきこと、あるいは弱さを見せることだと遠ざけてはいませんでしたか？遠ざけていた理由を書き出してください。
- 脚本に基づき、あなたの「試行錯誤」が作品完成時の感動を何倍にも膨らませるスパイス（文脈）になると気づいたとき、動画で自己開示することへの心理的ハードルはどう変化しましたか？
- 再生数という表面的な数字に一喜一憂するのをやめ、動画の向こう側にいる「一人の熱狂的なファン」に向けて、プロとしてどのような「誠実な言葉」を届けていきたいか具体的に書き出してください。

【Q2：学芸員視点による価値の再定義】

(AIワーク2：長尺動画から「バズる短尺動画」を切り出すを受けて)

長尺動画の台本から、AIが特定したインパクトのある「短尺動画（ショート動画）」の切り出し箇所とタイトル案を確認してください。

- AIが選んだ「切り出し箇所」を客観的に眺めたとき、あなたが自分では当たり前だと思っていた技術や言葉の、どこに「第三者が惹きつけられる強烈な価値」が宿っていると感じましたか？

- 「学芸員の価値翻訳」の視点を用いて、難しい技法やコンセプトを誰もが共感できる「物語」へと変換する台本作成術を意識したとき、あなたは自分の動画をどのような「ファンを魅了する招待状」として磨き上げたいと感じましたか？

【Q3：理想の未来と社会への貢献】

(AIワーク3：感動を逃さない「メルマガ登録誘導」の概要欄執筆を受けて)

動画を見て感動した人を、さらに深い関係を築くための「メルマガやLINE」へ誘導する概要欄の文章を読んでください。

- 動画を通じてあなたの「アトリエ（聖域）」へとファンを招き入れ、深い信頼関係を築いているあなたは、作品を通じて誰の心にどのような「灯火」をともしていますか？

- あなたが数字の奴隷にならず、動画を通じて少数のファンを丁寧に育てることは、情報の消費が激しい現代社会において、どのような「持続可能な文化的な豊かさ」を提供することになると確信していますか？

- メルマガなどのクローズドな場へファンを導き、プロとしての専門性を伝え続けることで、あなたが社会に対して果たしたい「精神的な支援」の内容を記述してください。

【本日のプロフェッショナル宣言】

風茜の教えと本日の内省を経て、あなたがプロとして一生守り抜くと決めた信念を清書してください。

「私は、学芸員視点の（ ）を磨き、自らの表現を通じて（ ）
という価値を動画で深く届け続けることを誓います」